

～品薄反映し、定番品目へ回帰～
酷暑を乗り越え、“量と品質の生産地”が受賞
パールトーン、くすみカラーは人気継続

フラワー・オブ・ザ・イヤーOTAは2005年にスタートし、今回で20周年を迎えます。この度は全国、及び輸入品を含む7万点以上の候補から、先述の5点が選出されました。
コロナ禍以降、久しく続く品薄を反映して、定番品目からの入賞が目立ちます。また、昨今の酷暑対策を行い、品質を維持しながらもご出荷数量を増やすなど、量と品質との両方を確保された生産者さまが受賞に至りました。
また、昨今ファッションでもトレンドとなっているパールトーンやくすみカラーは、花きの人気トレンドとしても引き続き人気です。

【フラワー・オブ・ザ・イヤーOTAとは?】

株式会社大田花き(おたかき:本社 東京都大田区 代表取締役社長:磯村信夫 東京証券取引所スタンダード市場 7555)は、東京都中央卸売市場大田市場に入場する国内最大級※の花き卸売会社です。当社では毎年、流通した花きの中から高く評価された品種、またそれを生産出荷された方にフラワー・オブ・ザ・イヤーOTAの賞を授与しております。

この賞は、年間の取引データに基づく統計分析、及び大手バイヤーによる投票で、トレンドを的確に捉えた品種が入賞するしくみになっています。品質のみならず、流通量や価格などの買いやすさ、色・形などのトレンドを含め、流通の観点から多角的、且つ総合的に評価された結果が反映されているのが特徴で、コンテスト形式の品評会とは大きく性質を異にしています。受賞者様には日頃のご出荷に感謝の気持ちを表するとともに、この結果を今後の作付けの参考情報としていただくことを目的としています。2005年に始まったこの賞は、本年で第20回目を迎えます。

なお、以下の通り表彰式を開催する予定です。


【フラワー・オブ・ザ・イヤーOTA 表彰式 開催概要】

- | | | | |
|-------|---|-----|-----------------|
| ◆主催 | 株式会社 大田花き | ◆運営 | 株式会社大田花き花の生活研究所 |
| ◆開催日時 | 2024年12月6日(金) 朝6時50分から7時00分 | | |
| ◆場所 | 株式会社 大田花き セリ室にて(東京都中央卸売市場大田市場花き棟内) | | |
| ◆予想動員 | 300人から400人(当日のせり参加買参人数の見込み) | | |
| ◆URL | https://otakaki.co.jp/contents/flower/
(本年の結果は12月6日以降に掲載されます) | | |


URL : <https://www.otalab.co.jp/>





以上


 **国内最大級※の花き市場が選出**
2024年のトレンドを反映する花
第20回フラワー・オブ・ザ・イヤーOTA
“品薄反映、定番品目が続々受賞
パールトーン、くすみカラーの人気継続”


20th Anniv.

 **【最優秀賞】 マム(キク) “クラシックココア”**
オールフォーマム
JA 愛知みなみ赤羽根洋花部会 ALL4MUM 様(愛知県田原市)
愛知県は全国随一の花き大産地。国内4割を占めるキク生産においても草分け的存在。老舗大産地でありながら伝統にとらわれず、クラシックココアという大正口マンを思わせるレットロで新しいキク(マム)をプロデュースしたことで、マーケットを驚かせました。丁寧なつくりと品質に定評があります。

 **【優秀賞】 バラ “オール4ラブ+”**
齋藤 武 様(栃木県河内郡)
齋藤様はバラ生産50年。昭和後期から日本の切バラ生産を牽引してきたおひとり。国産バラのスタンダードを引き上げつつ、「国産バラは上質」という現在の常識を作り上げたレジェンドとも呼ばれます。
*品種名末尾の「+」は種苗会社のマークで音読みませんが、可能であれば表記をお願いいたします。

 **【特別賞】 リンドウ “安代のはごろも”**
JA 新いわて八幡平花卉生産部会 様(岩手県八幡平市)
JA 新いわて様は、国内随一のリンドウ生産地。大田花きにおける流通シェアは半分以上を誇ります。安代のはごろもは、八幡平市のオリジナル品種。透き通るような水色で涼やかさを演出。天女が羽衣をまとったかのような印象で、仏花だったリンドウの需要をホームユースにも広げ、幅広く支持されました。

 **【特別賞】 枝物 “ミモザアカシア”**
榎本バラ園 榎本 雅夫 様(千葉県君津市)
裏山に植えてあった3本からスタートし、現在は4,000㎡の畑で栽培。それでも足りないというマーケットの声に応え、出荷量を増やすべくお仲間とともに部会設立にも尽力されました。年間5万本*のミモザ出荷を実現。生花店にミモザアカシアが並ぶ当たり前を作った立役者です。
*大田花き直近1年出荷分

 **【新商品奨励賞】 ヒマワリ “ダーズリン”**
山田 容礼(まさよし) 様(千葉県館山市)
花き生産35年、ヒマワリのブランドとして業界に名を馳せています。茶色の八重は珍しいと取り組んだダーズリンは、紅茶の茶葉の色がにじみ出るかのような絶妙な花卉模様が特徴です。山田様の商品は、きれいに品質が揃っているばかりでなく、その荷姿は細部まで行き届いた気配りが感じられ、好評を得ています。

※一般社団法人日本花き卸売市場協会発表の年間取扱高全国第一位